

第26期
活動方針

第32回 <春の全国 TEENS キャンプ> 支援

次世代への信仰継承と、あらゆる世代との宣教の分かち合い



テーマ 日ごとの糧

今年の「春の全国 TEENS キャンプ」(以下、春キャン)はコロナ後の3年間開催された千葉県を離れ、宮崎県えびの市で行いました。

ディスカッション中心の「春キャン」から、今回は体験中心の「春キャン」を目指し、廃校を活用した、農作業を体験できる宿泊施設で行われました。

さあ、いざ農作業だ！ と思っていましたが、あいにくの荒天。急遽予定を変更して、ケージ飼いと平飼いの両方を実践している養鶏場を訪ねました。養鶏家の方のお

話を聞きながら、普段口にするものがどのように私たちに届くのかを考えさせられました。また、餌やりをさせていただいて、採卵した卵を食事の時に食べたりしました。

聖書からは神様からの恵みを、出エジプト記のマナや主の祈りを通して考えました。目に見える恵み、目に見えない恵み、一見私たちには善いとは捉えることができない恵み、様々な恵みを聖書に聴き、それぞれの体験を分かち合いました。閉会礼拝では安達牧師から「その日の糧」とは食べ物だけではなく、イエス様のことでもあること。そして食べ物もイエス様も私たちが祈る前から与えられていることを聴きました。

各教会をはじめとする多くの方の祈りと、各教区、女性会連盟などの皆さまのお支えによって、恵みのうちに終了することができました。感謝して報告に代えさせていただきます。キャンプ長・森田哲史



出エジプト記から学ぶ「マナ」

大和友子さんは3月2日、按手を受けられました。おめでとうございます。
4月より牧師として久留米・田主丸・二日市の3教会でのお働きが始まります。

大和 友子



① 好きな聖句を1つ決めるというのはとても難しいことですが、あえて1つ選ぶとすると・・・「人間の心は自分の道を計画する。主が一步一步を備えてくださる。」(箴言 16:9)

これまでの人生で決断をしなければならなかったとき、この言葉が心の支えになっていました。

② 書き始めると長くなり、とても短くまとめることは難しいことです。新型コロナウイルスで学校が長期の臨時休業になったとき、勤務していた学校では毎朝の礼拝

を YouTube 配信しました。礼拝でメッセージを語ること、聞くことを通して励まされ、慰められこれまで経験したことがない緊急事態を乗り越えることができました。退職後もみ言葉を語り続けたいと思い、献身を決意しました。

③ 信徒の方の声に耳を傾け、あるいは言葉にはならない思いに心を寄せて、一人でも多くの方に福音を届けたいと思います。

④ 年齢と共に、肉料理よりも魚料理、洋食よりも和食を好むようになったように思います。料理が好きなので、自分で作ったものは何でもおいしいと思っています。苦手なものは作りません。

⑤ 仕事をしていたときも、神学校での4年間も余暇はほとんどなく、家事と仕事、勉強に追われる自転車操業の毎日でした。隙間時間にちょっと手の込んだ料理をすること、庭の手入れをすること、何年やっても全く上達しないフルートを吹くこと、体を動かすことが気分転換になっています。

第26期 活動方針

感謝献金による国内外への生きた宣教と支援

● 釜ヶ崎ディアコニアセンター 喜望の家

喜望の家は、49年前にE・ストロームさんにより、大阪市西成区の日雇い労働者の町、通称「釜ヶ崎」に設立されました。当初より、アルコール依存症およびギャンブル依存症の問題を持った方々が回復していくための援助として、居場所提供やカウンセリング・作業療法などのプログラムの提供、そして、生活保護受給並びに受給後の生活相談などを行っています。

(写真は滋賀県信楽の陶芸の森まで遠足に行った時のものです。)

〒557-0004
大阪市西成区萩之茶屋 2-8-18
TEL 06-6632-1310
<https://kama04kibonoie.sakura.ne.jp>



● るうてるホーム



〒575-0002
四條畷市岡山 5-19-20
TEL 072-878-9371
<https://www.ruuteruhome.or.jp>

1965年に軽費老人ホームとして認可されてから、59年の歴史を大阪府四條畷市の地において刻んできました。女性会の皆様のお祈りとご支援によって設立されたホームは、以後、特別養護老人ホーム、ケアハウス、デイサービス、等が次々に始まり、現在は高齢・障がいの福祉を担う総合施設として事業を行っています。2013年秋に、多く

の方のお支えにより現在の場所に新築移転しました。古い枠組みにしばられない新たな挑戦を続けています。

● 光の子会

エフェソの信徒への手紙 5章 8節「光の子として歩みなさい」を法人の理念とし、関門海峡を臨む門司の地において、児童発達支援や就労支援、生活介護、共同生活援助、短期入所、そして相談支援の各事業に取り組んでいます。障がいのある者も、ない者も、共に神様に愛され生かされていることを心に留めながら、互いに認め合い、ゆるし合い、支え合い、感謝し合い、喜び合う光の子として、園児、利用者、保護者、職員が手を携え歩みを進めています。

〒801-0872
北九州市門司区谷町 1-8-8
TEL 093-332-4799
<https://www.hikarinoko-kai.or.jp>



● 別府平和園

別府湾や鶴見岳が眺望できる、自然豊かな場所に子どもたちのホームがあります。6000坪を超える広い敷地で子どもたちがのびのびと遊び、施設内には源泉が湧いており、温泉のようなほかほかとした温かい雰囲気があります。別府平和園では、子どもたちとの「日々の丁寧な暮らし」を追求し続けています。卒園した子どもたちが訪ねてくることも多く、卒園した子どもにとってもいつでも帰れる温かい場所でありたいと願っています。



〒874-0843
別府市明礬町 5組-2
TEL 0977-66-3121
<https://www.bepuheiwaen.com>

● デンマーク牧場 多機能型事業所 いぶき

「いぶき」は、障がい者の方々が働く就労継続支援A・B型施設。牧場に囲まれた広大な場所にあります。牛・馬・羊の飼育、乳製品づくり、羊毛作品づくりなど興味や適正に合わせて自由に活動。みな生き生きと牧場で汗を流し、アイデアを出し合って愛情いっぱいの羊毛作品を作っています。



〒437-1311
袋井市山崎 5914-1272
TEL 0538-23-0880
<https://www.denmark-bokujyo.or.jp>

● ささしま共生会

名古屋市にあるキリスト教会各派が集まって、野宿者支援を中心とする配食活動を行っています。自立支援のための生活支援活動としてアパートも運営しています。キリスト者として、社会からこぼれ落ちている方々を支えることを通して、多様な生き方が受け入れられ、共に生きる社会になって欲しいと願っています。

〒456-0032
名古屋市熱田区三本松町 7-3
松田ビル 201
TEL 080-4960-0516

Facebook <https://www.facebook.com/share/1Bg6LbVvAo/>



8 団体のうち、

6 団体が新しい支援先です

● ベタニヤホーム

聖書をバックボーンに「隣人に使える」ことを大切な柱としています。私たちは、社会的養護を必要とする母子（18歳以下の子ども）が安心・安全な場所でレスパイト（休息）を取り、再び社会生活ができるようにサポートします。現在20組の母子が共同生活をしています。そして支援の場所を知らない孤立している人びとにも目を向け、地域へ出向いていき「アウトリーチパントリー（食支援）」活動を通して、共に生き合う社会を目指します。

〒130-0022
東京都墨田区江東橋 5-4-1
TEL 03-3631-0444
<https://bethanyhome.jimdo.com/>



● ほしくずの会



浅野聖子連絡先
plumcreek1224@hotmail.com
詳しくは「ほしのいえ」HP参照

スペイン・ベリスで始まったメルセス会の二人の修道女により、山谷地域で路上生活を強いられている労働者の生活、人権を守るために、1991年「ほしのいえ」の活動が開始しました。ルーテル教会のメンバーは「ほしのいえ」の活動の一部である炊き出しを中心に協力し、「ほしくずの会」と名付けて1992年から活動しています。浅草から北に2kmの所にあるほしのいえ作業所で、毎週おにぎりとお味噌汁を作り、4カ所定点炊き出し（配食）を行っています。